

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

February
ISSUE



February, 2023
Volume 131

「使える英語とは何か」

「急激に変化する社会を生き抜く子どもたちが身に付けるべき力とは」新聞や教育雑誌でよくみるタイトルです。とりわけ英語教育に関しては、その教育方法に大きく変革を迫られています。背景には、日本の国際競争力の低下や、東南アジアの若者に比べて、日本の高校生の英会話力が低いと言われていることなどが挙げられます。2020年から実施された大学入試共通テストでは、リーディングから文法や語彙だけを問う問題は姿を消し、料理のレシピやブログの記事が長文問題で出されたり、リスニングとリーディングの配点が同じになったりするなど、思考・判断・表現力がより問われるようになってきました。「使える英語」教育への変革です。

DIAでの英語教育は、教科としての英語のみならず、算数や探究、アートやミュージック、PEなど教科を越えて、1日のうち半分の授業が英語で行われています。毎日英語のシャワーを浴び、どっぷり英語につかる、そんな教育環境が本校にはあります。英検2級や準1級など高いレベルの検定テストに挑む子どもたちもいますが、そのテストに合格するためにDIAに入学したという子はほとんどいないでしょう。もちろん、試験対策として、集中的に長文を読んだり、聴いたりする努力は大変素晴らしいことです。しかし、検定合格はあくまで手段であって、英語を使って自分の意思を伝えたり、相手の思いを聞き取ったりするコミュニケーション力の向上こそ目的であるといえます。

2020年東京オリンピックの際には、瞬時に100言語以上の音声とテキストを翻訳できる機械が活躍したと聞きました。最近では英文を写真に撮るだけで翻訳してくれる機能もあり、海外から来た人への接

客は、英語で話すことよりもその機械の操作に慣れることや、相手の顔を見て笑顔で対応することに重きが置かれているそうです。

となると「使える（＝実践的）な英語」とは何でしょうか。昨年末の教員人権教育研修会で多くの翻訳を手がけている詩人アーサー・ビナード氏の講演を聞きました。その中で「詩や物語は翻訳によってその1部を失う。辞書だけに頼ってはいけない。」という言葉が印象的でした。宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を翻訳アプリで調べてみるとその訳は「**Even in the Rain**」ですが、アーサー・ビナード氏によると「**Rain won't stop me**」となります。この1文だけでも、ひた向きに農耕作業に勤しむ賢治の姿が思い浮かんできます。日本の文学作品の本質を海外の方が味わうことができるのは、そんな巧緻な「言葉選び」によるものでしょう。

さてDIAで学んでいる子どもたち、本校での英語教育のインプットは、大変良質で国内でもトップレベルです。大切なことは自主的にアウトプットしていくことです。6年生はエキシビションで日英対話型でのプレゼンテーションに臨みました。自分からGANETの先生に毎日話しかけてみよう、授業中の話し合いでは日本語を使わないようにしよう、学校の外でも英語を使ってみよう。きっと周りにそんな友達がいれば、その人に触発されて、一人ひとりがもっと積極的に英語を話そうと思うようになるでしょう。使える英語を身につけるには、自分の言葉で英語を使っていくことが大事です。間違ったっていいんです！**Enjoy making mistakes!** これからもずっと子どもたちの可能性を信じ、学びを応援していきたいと思います。

教頭 西村 孝次



キリスト教教育 2月：愛 February: Love

「…母が年老いても、侮ってはならない。」

(箴言 23 章 22 節)

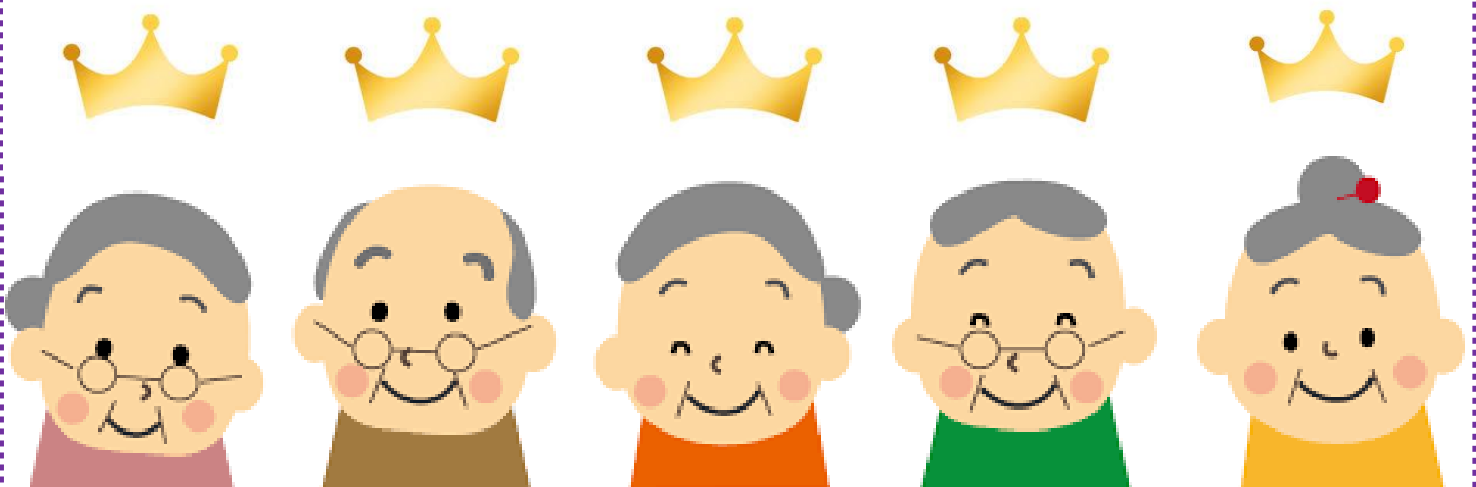
聖書協会共同訳

最近、老いた母の手を引いて病院通いをする機会が増えました。若い頃の潑刺とした親の姿が目には焼き付いている者としては、なかなか現実が受け入れ難いものです。昼夜の感覚が逆転し、5分か10分置きに同じことを尋ね、一度に二つ以上の話をするとう内容が処理しきれず、どちらか一方は記憶から完全に抜け落ちている…遅かれ早かれ、全ての人が辿る道なのかも知れませんが、何だか自分の親が遠い別の星の住人になってしまったみたいで、とても寂しく感じます。そこでつい、「何でそんなこともわからないの？」という気持ちが態度に出てしまうのです。それが治療の役に立たないばかりか、ますます症状を悪化させてしまう原因になるということを、頭ではわかっていながら…。

上掲の聖書の言葉に「母が年老いても侮ってはならない。」とあるのは、今は衰えていても、この人がお腹を痛めて自分をこの世に産み落としてくれたという事実や、大人の保護がなければ生きられなかった乳幼児時代を守り育ててくれたこと、社会の風を知らなかった青少年時代に授けてくれた数々の知恵や知識について、決して忘れてはならないからでしょう。

4年生のUnit 6では「人々の生活をサポートする組織」について学びますが、今回、宗教でも初代キリスト教会がイエス様の御生涯の活動に基づく精神で、医療や福祉を発展させてきたことを取り上げます。聖書的な視点で見れば、高齢者は決して単なる弱者・憐れみの対象ではなく、「白髪は輝く冠、神に従う道に見いだされる。」(箴言 16 章 31 節)と呼ばれる光栄ある存在なのです。それは、例えばマザー・テレサのような「スーパー老人」ではなくとも、毎日を神に感謝しつつ人にも優しく生きてきた、というただそれだけで頂ける栄光の冠を持つ存在です。

(Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓)



<お知らせ>

・2月のおにぎり献金は2月14日(火)です。感染症予防のため、献金は封筒かジップロック等に入れてお持ちください。

G2 Unit 5 "How We Express Ourselves"

2年生は11月末から、UOIの探究で「お祝い事やお祭り事は、みんなが持っている願いや考えを表す。」をセントラルアイデアに学習を進めてきました。

まずは子どもたちにお祭りのイメージやどんなことをするのか聞いてみると、屋台で美味しいものを食べる、お神輿、法被とハチマキ、夏にするものなど、おそらく子どもたちが体験してきたお祭りの様子が出ていました。特に「金魚すくい」や「りんごあめ」など、屋台のイメージが強かった子どもたちにお祭りにはそれぞれ願いが込められていることを一緒に探究してきました。京都の「祇園祭」を例に挙げ、祇園祭は何のためのお祭りなのか、どうして山鉦巡行をするのかなど、写真や動画を見て予想しながら学習しました。

お祭りには願いや意味があることを知ったあとには、『世界のおまつり』『日本のおまつり』という本やインターネットなどを使い、世界にはどんなお祭りがあるのかを調べ、ペアやグループで発表しました。人前に立つと緊張する子どもたちも多いため、発表の場をたくさん設け慣れすることも大切です。ペアで発表した後は3, 4人のグループで発表し、次の発表ではクラスみんなの前でも発表しました。

このUnitは冬休みを挟んでいたため、冬休みの宿題では「年末年始のお祝い事やお祭りごとについて調べる」という課題を出しました。子どもたちは「クリスマス」や「お正月」、「おせち」や「お雑煮」など、それぞれ調べてきたことを絵と文にまとめ、学校でお友だちと発表し合い知識を深めました。

1月20日(金)には、春日大社へ校外学習に行きました。春日大社の方にお話を聞き、神鹿(しんろく)という白い鹿が茨城県から神様を乗せてきたことが春日大社の始まりであることや御祭りのこと、年中行事のことなどたくさんのお話を分かりやすく説明していただきました。また、春日大社の方に説明してもらいながら本殿やたくさんの灯籠がある場所なども散策しました。途中にはむくろじゅの木もあり、「この実が羽子板の羽の先についている黒い玉なんだよ。」と教えてもらい、子どもたちは驚きながらもたくさん実を拾って喜んでいました。むくろじゅの実を鹿が食べるそうで、拾った実を鹿にあげようとする子どもの姿も見られました。

サマティブアセスメントでは2年生になって初めてグループでの活動に挑戦しました。それぞれのグループがオリジナルのお祭りを作るために、何のためのお祭りなのか、どんなことをするお祭りなのかを考えました。子どもたちはそれぞれ自分の役割を考え、家からペンや段ボールなど必要なものを持ってきたり、お話を考える人と絵を描く人にわかれたりと、グループで協力して作業を進めていきました。また、考えたお祭りをどのように表現するかもグループで話し合いました。紙芝居で表現するグループもあれば劇で表現するグループ、歌を作ってミュージカルで表現するグループ、人形劇で表現するグループなど、さまざまな表現方法で発表しました。最後にはそれぞれのグループの発表をクラスみんなで見学しました。他のグループの発表を見ることで、「こんな表現のしかたもあるのか」と新しいことに気づいたり、良かったところはまねしようと次の学習のためにメモをしたりしながらグループ発表を楽しみました。





しあわせさんと かなしみさん

今年は、昨年よりも寒い冬がやってきました。この季節、心はいつも温かく穏やかでありたいものです。今月は心がほっこりする2冊を紹介します。

しあわせをさがしているきみに

(作：エヴァ・イーランド/訳：いとうひろみ/ほるぷ出版)

「幸せ」とは何なのでしょう。それは、目に見えなくて、色々な形をしています。この本では、ある男の子と「しあわせさん」が登場します。しあわせさんは皆さんのすぐそばにいたり、後ろを付いてきたりします。人はしあわせさんを捕まえようとして追いかけたり、集めようとしたり守ろうとしたりして、しあわせさんの事を知ろうと一生懸命になります。しあわせさんは、時にかくれんぼをします。その時人は気持ちがモヤモヤしたり余裕がなくなったりします。でも、それは決して不幸せなことではありません。いろんなことを感じたり気付いたりして、そこからまた幸せを生み出すことができるのです。



かなしみがやってきたらきみは

(作：エヴァ・イーランド/訳：いとうひろみ/ほるぷ出版)

「しあわせをさがしているきみに」と同じ作者の本です。この本では「かなしみさん」が登場します。「かなしみさん」も「しあわせさん」と同じように皆さんのすぐそばにいたり、後ろを付いてきたりします。しかし、しあわせさんと違って、かなしみさんがくっついてくる時、私たちの心は息ができなくなるくらい苦しくなります。しあわせさんは時にかくれんぼをするけれど、かなしみさんは、見えないところに隠そうとしてもなかなか隠れません。そんな時、この本では「自分からかなしみさんと向き合い、話を聞いてみるもの悪くない。」と言っています。もしかしたら、かなしみさんがあなたにそばにいてほしかったのかもしれない。悲しみは決して悪いものではありません。誰にでもやってくるものなので、かなしみさんに手を差し伸べ、受け入れてあげることも大切だと教えています。どちらも、柔らかい言葉で読み手の心に寄り添ってくれる本です。ぜひ読んでみてくださいね。



2月の主な行事・予定

1	水	委員会活動 / Student Committees
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	Unit 6 (week 3)
7	火	
8	水	クラブ活動 Club Activities
9	木	
10	金	
11	土	建国記念の日 / Japan's Foundation Day
12	日	
13	月	Unit 6 (week 4)
14	火	
15	水	委員会活動 / Student Committees
16	木	
17	金	タレントショー / Talent Show
18	土	
19	日	
20	月	Unit 6 (week 5)
21	火	
22	水	クラブ活動 Club Activities
23	木	天皇誕生日 / Emperor's Birthday Holiday
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	Buffer Week
28	火	

3月の主な行事・予定

3/17 卒業式 / Graduation

3/22 終業礼拝 / Closing Worship Service